

5  
2023

三重病院

# ニュースレター

news letter vol.280



- 01 小児整形外科治療と子どもから大人の入院リハビリテーション
- 02 臨床研究部からのお便り[第49回]  
通所支援事業のひとコマ
- 03 2病棟の子どもたちの生活のひとコマ  
5病棟の生活のひとコマ<sup>®</sup>
- 04 三重病院での研修を経て／異動のごあいさつ  
やまばとギャラリー情報コーナー
- 05 楽しい術前スタンプラリー  
今月のみえツウちゃん／外来からのお知らせ
- 06 病院からのお便り／外来診察のご案内

## 小児整形外科治療と 子どもから大人の入院リハビリテーション

三重病院整形外科は小児整形外科を専門領域として  
います。

対象疾患は

乳児股関節脱臼（発育性股関節形成不全、DDH）、  
先天性内反足、先天性筋性斜頸、ペルテス病、脳  
性麻痺、脚長不当、四肢の先天奇形、後天性の四  
肢変形、二分脊椎、神経筋疾患などです。

これら小児整形外科疾患では継続的に装具治療、リ  
ハビリテーションが必要であったり、成長に応じて手術  
治療を考慮することが重要となります。

特に脳性麻痺など神経疾患では、小児期から大人に  
なっても病気自体は続きますので、継続的に姿勢や四  
肢の変化には注意し、治療することが重要となります。

そこで、当院整形外科では、これら希少疾患を中心  
に機能改善・維持のため、**小児から大人まで入院リハ  
ビリテーションや手術を行っており、リハビリだけでも入  
院が可能です。**

小児期を過ぎるとリハビリの機会も減少するため、  
特に重度脳性麻痺において、子どもから大人まで  
手術やリハビリテーション入院の機会が増えていま  
す。（2020年7月号ニュースレター vol.251）

PT,OT,ST を組み合わせ、ボツリヌス注射による筋緊  
張緩和、小児神経科による投薬治療、小児科による全  
身管理のバックアップを取り入れることもできます。手  
術的治療を行う場合は、下肢だけでなく上肢も手術対  
象となり、筋解離にて姿勢の改善、介護量の軽減を目  
指します。



■30歳/男性/  
脳性麻痺  
寝たきりの状態で上肢  
には著明な屈曲拘縮あ  
り、両肩両肘両手関節  
はほぼ固定状態で、頸  
部は過伸展の状態で  
あった。  
上肢下肢筋解離術を  
施行。

### 上下肢手術

■32歳時、上下肢術後  
の座位姿勢  
頸部が安定して頭部を  
保持し、左右に回旋も行  
うようになった  
（整形外科  
・2022:73:1047-51）



（了承を得て掲載しております）

長年の麻痺、筋緊張から生じる症状、姿勢異常には、  
じっくりと入院による整形外科的治療を行うことも重要  
です。からだ全体の機能維持のため、必要に応じ適宜、  
リハビリ入院単独でも行えます。興味がおありの方は、  
お気軽に整形外科、医療福祉相談室にご連絡下さい。

（小児整形外科 西山 正紀）